

(9) 肉用牛生産の拡大

畜産課

1. 目指す姿と取組のポイント

【和牛子牛生産頭数 9,300頭以上、産出額 25億円以上増加】

子牛市場価格の変動にも耐えられる特色ある子牛の生産を進め、安定した経営を目指す将来の担い手を継続的に確保

- ① リース牛舎や放牧を活用した新規就農者の確保
- ② 市場価格をリードする種雄牛の造成
- ③ 繁殖雌牛の能力向上
- ④ 子牛や肥育牛の生産性向上

【KPI目標】和牛子牛生産頭数

R1: 7,522頭 ⇒

R5: 実績8,300頭(見込)/目標8,900頭

2. 取組の進め方と令和6年度予算事業

(1) 新たな担い手確保

【目標】毎年5名以上の新たな担い手を確保

R5 まで	取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資材や飼料の高騰から積極的に推進できない状況 ○ リース牛舎の整備を調整（雲南、浜田ほか）
	成果	○ 新規就農者10名(累計)、自営就農希望者12名(R5.9時点)



R6	取組 方向	<ul style="list-style-type: none"> ○ 30頭規模以上を目指す専業新規就農者を育成 ○ 市町、JAと連携してリース（アパート）牛舎を整備
	支援 事業	<p>➤ 牛舎等の整備を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ハウス等整備事業（中核的な経営体を目指す自営就農者確保対策事業の内数） 【拡充】 ・ リース牛舎等の整備（補助率 国1/2+県1/4） 208,000千円（187,244千円） ○ 畜産クラスター事業<国>（補助率1/2） 300,000千円（200,000千円）

(2) 種雄牛の造成・繁殖牛の能力の向上

(3) 子牛や肥育牛の生産性の向上

【目標】子牛市場価格と肥育出荷成績で
全国平均以上を達成

R5 まで	取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第13回和牛全共北海道大会出品対策の本格化 ○ 子牛価格対策（国事業の要件緩和、育成技術の指導等）の実施
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国肉用牛枝肉共励会で2年連続日本一を獲得（県全体の枝肉成績も改善） ○ 子牛価格は一部地域を除き全国的に低迷 <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国平均に対する比率 枝肉上物率 R1:95% ⇒ R4:98.8% ⇒ R5:99.7% 枝肉重量 R1:97% ⇒ R4:98.3% ⇒ R5:100%（見込） 子牛市場価格 R1:98% ⇒ R4:96% ⇒ R5:94%

R6	取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種品評会での好成績を活かし「しまね和牛」の認知度向上の取組を推進 ○ 北海道全共に向けた候補牛づくり(高能力雌牛活用による改良を促進) ○ 畜産技術センターの種雄牛造成体制を強化
	支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 繁殖雌牛の増頭・更新を支援 <ul style="list-style-type: none"> ○ しまね和牛生産振興事業（繁殖雌牛更新対策） 25,000千円（37,500千円） ・更新10万円/頭、増頭15万円/頭⇒計180頭(40+140) ○ しまね和牛生産振興事業（優良雌子牛保留臨時対策）【新規】25,000千円 ・増頭又は更新25万円/頭⇒計100頭 ➢ 生産子牛の評価向上、種雄牛の造成を強化 <ul style="list-style-type: none"> ○ しまね和牛生産振興事業（雌子牛評価向上支援）【新規】2,800千円 ・上場雌子牛の疾病因子の検査費用支援（3.5千円/頭×800頭） ○ しまね和牛生産振興事業（評価向上対策） 20,000千円 ・新たな能力評価項目の実用化、子牛生産・育成技術対策の実施 ○ 種雄牛造成強化事業 41,786千円（44,473千円） ・超優秀雌牛の導入、ゲノミック評価の活用によるスーパー種雄牛の造成 ➢ しまね和牛の認知度向上の取組 <ul style="list-style-type: none"> ○ しまね和牛生産振興事業（マーケティング・県外販売拡大支援）【新規】19,300千円 ・観光連携、県外販売の拡大支援、子牛購買者の誘致

（４）放牧の拡大、県産飼料利用拡大

【目標】放牧を利用している繁殖牛を3,800頭以上に増加

R5 まで	取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共放牧場の整備と効率的な管理(リモコン雑灌木伐採機)の実証（隠岐、大田） ○ 県内産飼料と堆肥の利用拡大に必要な機器等の整備を支援（27件） ○ 自給飼料の生産・利用に係る現地実証（松江、出雲、大田）
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放牧利用頭数は横ばい R1:3,300頭⇒R5:3,300頭（見込み） ○ 知夫・西ノ島・三瓶で放牧牛管理GPSシステムを一部導入 ○ 稲WCS(R1:545ha→R5:745ha)及びトウモロコシ(R5:40ha)栽培面積の拡大



R6	取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内産水田粗飼料の生産・利用を拡大 ○ 隠岐、大田、奥出雲等で放牧利用を拡大
	支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 県内産飼料の利用拡大・定着 <ul style="list-style-type: none"> ○ 県産水田粗飼料利用拡大推進事業 【新規】170,800千円 ・粗飼料の品質・収量向上に係る畜産農家の取組支援（稲WCS：16千円/2500kg他） ・その他、分析費用支援、マッチング活動支援等 ➢ 放牧場の整備を支援 <ul style="list-style-type: none"> ○ 放牧再生支援事業 11,308千円（11,308千円） ・雑灌木の除去、牧草の再播種、牧柵の修繕等（補助率1/2、上限330万円） ○ 畜産公共事業<国、県、町村> 243,200千円（252,074千円）